

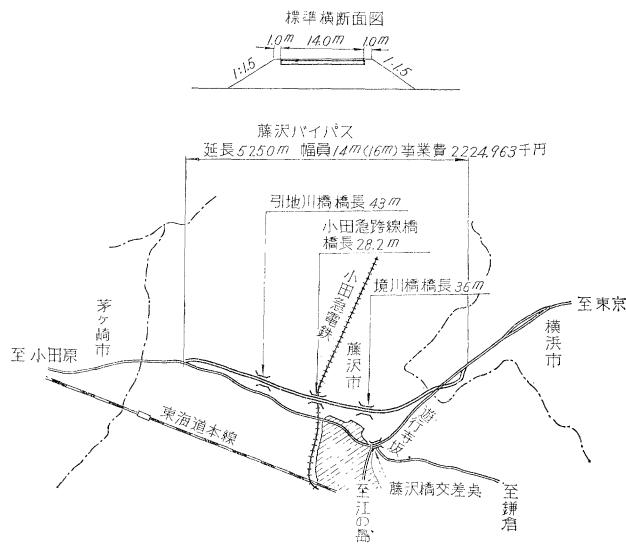
## ニュース

### 藤沢バイパス開通

藤沢バイパスは、一級国道1号線（東海道）のうち最も交通の難所になっていた神奈川県藤沢市をバイパスしたものである。

藤沢は東海道五十三次の昔より宿場町として名を知られ、名所旧跡なども多く、特に遊行寺は時宗の總本山というより日本三黒門のひとつのお寺として有名である。また現在では夏の行楽地江ノ島、鎌倉を結ぶ拠点となっている。1号線の交通は年々激増の一途をたどり、昭和28年3000台/日の交通が、昭和37年には11300台/日と約4倍の伸びを示している。特に海水浴客が集まる夏季交通は30000台/日と驚異的な数字を示し、交通の幅

藤沢バイパス位置図



開通した藤沢バイパス



それがはなはだしく、激増する交通量に対し、現国道は幅員狭少で、線形も悪く、人家連担で特に藤沢橋の交差点は交通まひの状態にありバイパスの早期完成が切望されていた。

このバイパスの建設工事は昭和33年度より着手され、丘陵地の大土工、軟弱地盤の高盛土などの難工事をかかえ、また夏季の交通量に対処すべく昨年8月より昼夜兼行の工事を行なうなど、幾多の難関を克服し、4年3カ月の才月と事業費22億2500万円を投じ、昭和38年6月24日ここに開通した（口絵写真 参照）。

#### 概要

路線名：一級国道1号線

区間：横浜市戸塚区東保野～藤沢市辻堂

延長：5250m

幅員：16m（車道幅員14m）

最少半径：600m

最急勾配：3%

規格：第一種平地

舗装：アスファルト舗装

事業費：2224963万円

### 信越本線横川～軽井沢間新線

#### 営業開始

去る5月15日信越本線横川～軽井沢間線増工事が終り、引き続き急勾配の粘着方式によるEF63型機関車で練習運転が行なわれていたが、7月15日長野電化の開業と同時に新線の営業を開始した（口絵写真 参照）。

同線は66.7%という急勾配を従来のアプト式を廃止し、高性能の新型電気機関車EF62, 63による粘着運転方式を採用したもので、け

ん引定数の増加と、スピードアップが実現した。これにより横川～軽井沢間の運転時間が下り列車で20分、上り列車で9分短縮された。なお、今回新線を運転するのは、上野～長野間直通電車3往復だけで、全面的に運転するのは10月1日の予定である。

横川～軽井沢間に建設された新線は、延長8.9km、トンネル11カ所、延長5.5km、橋梁19カ所、延長230mで、おもな土木構造物は、鉄筋コンクリートアーチの新碓氷川橋梁（橋長100.8m、

中央径間アーチ部分 70 m) や、新碓氷第9トンネル(1 332 m), 新碓氷第1トンネル(1 218 m)などである。また使用されたレールは 50 kg N 型、まくらぎは PC 4号 6型である。

### 横浜市水道 川井急速ろ過場の完成

橋浜市水道は急激な需要量増加によって、昭和 36 年には、道志川と相模湖より取水する既得水源 65 万 m<sup>3</sup>/day を使い果たし、なお不足する状態となった。

したがって、現在施工中の馬入川取水事業(相模川総合開発事業の城山ダムから 45 万 m<sup>3</sup>/day を取水し配水する)が完成する昭和 39 年まで、神奈川県相模湖の余裕貯留量から最大 24 万 m<sup>3</sup>/day を臨時に増加受することとしたのである(口絵写真 参照)。

このため、導水施設は管路部分に口径 1 500 mm 1 900 kW の加圧ポンプをふくめ、合計 6 カ所のポンプ所を設置し、浄水施設については既設、川井、鶴ヶ峰、西谷の三浄水場の処理能力を最大限に発揮せしめ、不足分は川井浄水場構内に急速ろ過場を新設して対処した。

川井浄水場は、明治 34 年第一回拡張工事によって設けられた緩速ろ過池 4 池をもつ敷地面積約 51 000 m<sup>2</sup> の浄水場であったが、新設急速ろ過場はこの構内に建設したもので、昭和 37 年 4 月着工し本年 5 月末より運転を開始し、現在は全能力発揮の状態にある。

おもな施設の概要はつきのとおりである。

#### 1. 強制沈殿池

既設量水池を改造し、スラッジ ブランケット型の沈殿池 2 池新設

#### 2. 急速ろ過池

重力多孔管方式	8 池
一池あたりろ過面積	95.2 m <sup>2</sup>
規準ろ過速度	140 m/day
最大ろ過速度	180 m/d
規準ろ過量	105 000 m <sup>3</sup> /day
(既設緩速ろ過池最大ろ過量)	10 000 m <sup>3</sup> /day

#### 3. 浄水池

ろ過池の下部に 2 池築造、有効容量 5 700 m<sup>3</sup>

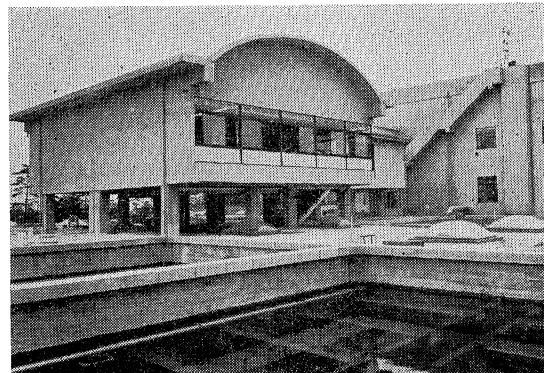
#### 4. 浄水場本館

地上 1 階	ポンプ室、電気機械室、液体バンド貯蔵室
地上 2 階	事務室、応接室、塩素滅菌室、その他
地上 3 階	バンド注入室、展示室、倉庫、その他
地上 4 階	洗浄用水槽、有効容量 480 m <sup>3</sup>
建坪 143.5 坪	延べ 574 坪

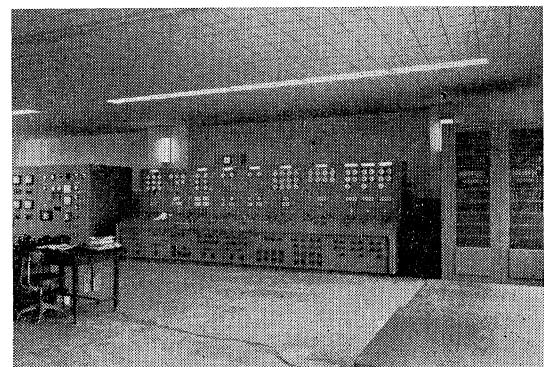
#### 5. 集中管理設備

浄水作業と管理とを集中的に計測、監視するための各種計器、監視盤、導水管路の增量加圧のための各ポンプ所をすべて遠隔操作する遠方監視制御盤など最新の技術を取り入れ、オートメーション化した近代的設備をもつものである。

中央管理室外観  
手前：急速ろ過池 向側：本館裏面



中央管理室内部  
右側：ポンプ遠方監視制御盤 中央：電力制御盤  
左側：計装計器盤



#### 6. 建設費

総額 11 億円 うち、導水設備 3 億 5 000 万円  
浄水設備 7 億 5 000 万円

### 国鉄三江南線式敷～口羽間営業開始

去る 6 月 30 日広島、島根県にまたがる三江南線式敷～口羽間 13.7 km が開業した。

三江線は、芸備線三次駅を起点とし、江川に沿って北上し、浜原を経て、山陰本線 石見江津駅に至る路線で、地方産業の開発と陰陽連絡を目的とするものである。

この三次～石見江津間のうち、山陰側の石見江津～浜原間は、昭和 12 年 10 月までに逐次開業し、現在、三江北線として、営業を行なっている。

三江南線については、昭和 30 年 3 月備後十日市(三次)～式敷間 14.8 km が、開業している。

今回開通をみた式敷～口羽間は、昭和 31 年 11 月 10 日工事に着手した。途中、電源開発 KK の江川開発計画に

## — ニュース —

関連し、工事の中断などがあったが、その後再開し、竣工開業したものである。

式敷～口羽間は、気動車1両で、1日4往復運転し、旅客のみ営業する。

工事概要は、つぎのとおりである。

区間：式敷～口羽間  
延長：13.7 km (営業キロ)

線路種別：丙線

最急勾配：16‰

最小曲線半径：200 m

レール：30 kg

開通区間略図



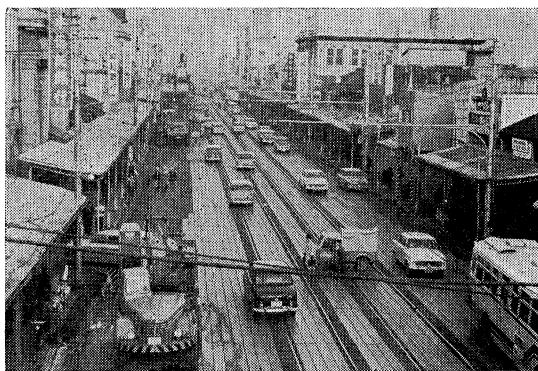
開通式風景



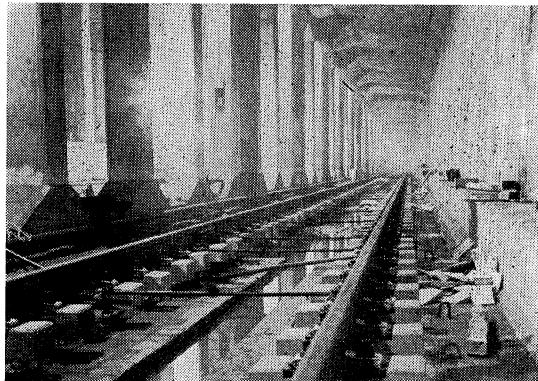
### 京阪神急行電鉄京都地下延長線開通

京阪神急行電鉄 KK の京都地下延長線工事は、昭和36年8月1日起工式を行ない、同年10月18日、本工事に着工以来20カ月にて、さる6月17日初発電車により開通した。同社30年来の念願であったこの延長線は、京都市のメインストリート四条通りを、四条大宮から四条河原町まで延長し、都心乗り入れを実現したもので、名実ともに京都・大阪・神戸の三大都市の中心、玄関が直結された。これにより

工事中の京都四条通り



新装なった内部



- (1) 京都市内交通のスピードアップをはかり、
- (2) 京都の商業・経済の中心を大阪・神戸および阪急沿線地域と直結し京都市の発展に寄与し、
- (3) 京都市の中心乗り入れにより観光京都の発展に大いに貢献し、
- (4) 京都市内の路面交通、特に四条通りの混雑緩和に貢献し、
- (5) 阪急沿線、特に京都線沿線の発展に寄与し、
- (6) 京都市より郊外への通勤地図が塗りかえられることによって住宅地としての京都市の発展が期待される。

なお、本延長線の概要はつぎのとおりである。

工事延長：1.77 km

工事方法：覆工式開削工法

総工事費：約 54 億円

軌間：1.435 m

最小曲線半径：600 m

最急勾配：3‰

トンネル：鉄筋コンクリート箱形ラーメン

地下歩廊：烏丸～河原町駅間 995 m

出入口：28カ所 (開通時 23カ所)

停車場:鳥丸 幅 9m 長さ 160m  
 河原町 幅 9m 長さ 270m  
 ホームはいずれも島式で、柱は中央に溶接鋼管合成柱とし、天井とホーム下部に吸音材を使用し、また河原町駅に2台のエスカレーターを設置

換気:機械換気による排気のみ4カ所

防水工:線路部 モルタル防水  
 駅部分 アスファルト防水

軌道:レール 50kg N型 長大レール  
 道床 コンクリート直結道床

集電方式:架空単線式がい(鎧)装トロリー  
 電圧:直流 1500V

信号:三位色灯式自動閉そく信号機

付帯工事:四条大宮に幅 4m 長さ 40m の横断地下道を新設  
 井戸水対策を 1455 戸を対象として工事期間中の補償を行なった。

運転:特急の運転間隔短縮、運転時間延長その他電車編成の増加、増発などにより輸送力は 10~25% 増強された。

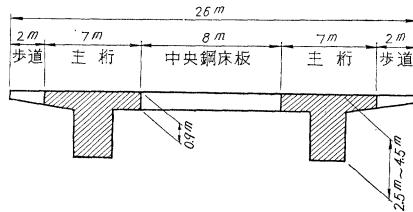
### 佃新橋の鋼桁架設始まる

隅田川河口、勝鬨橋と永代橋の間に架設される東京都の佃新橋は既報(本誌第47巻第2号・第5号)のとおり昭和36年1月着工以来工事は順調に進み、このたびよいよ鋼桁の架設を開始した。形式は3径間連続鋼床版箱桁で、中央径間はキャンティレバー エレクションの設計となっている。側径間はステージング工法で差しつかえないが、台風シーズン最中でもあり、ステージングの占有面積および期間に制限があり、かえって不経済となるので、中央径間で採用する、支保工を全く使用しないフローティング クレーンによる吊り工法で架設することとした。

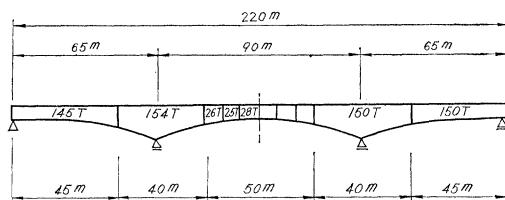
架設計画はつぎのようになっている。横断図における主桁部分を連続桁として完全に閉合してのち、両主桁上にまたがる門形走行クレーンで、中央鋼床版および歩道

部のブラケットを片側からつぎつぎと前へはって行って架設を終了する。この場合の主桁の架設は②のように分割された各ブロックを、③の順序で、架設現場より約400mはなれた仮組場(石川島播磨KK第1工場)よりフローティング クレーンで吊り下げながら曳航し、つぎつぎと結合して行くのである。このうち 154t および

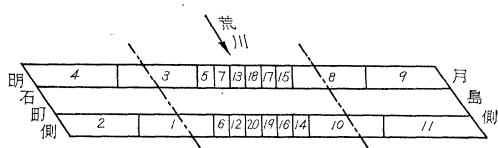
① 横断図



② 主桁分割図



③ 主桁架設順序

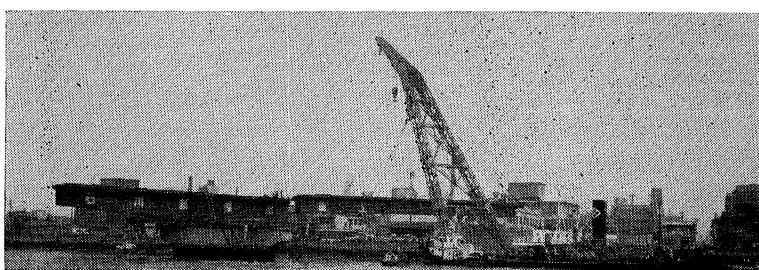


145t のブロックは、350t つりフローティング クレーンで、その他のブロックは 50t つりフローティング クレーンで架設する。写真は、昭和38年6月25日の第2ブロック架設の状況を示すもので、仮組場における吊り上げより現場セット完了までの所要時間は、第1ブロック2時間半、第2ブロック4時間であった。なお、この鋼桁製作架設工事(鋼重 2276t、工費 498 800 000円)は石川島播磨重工業KKの施工で、工期は昭37.11~昭39.3 となっている。

### 豊川用水の工事 いよいよ本格化

天竜東三河特定地域総合開発計画のうちの重要な一環事業である豊川用水事業は、去る昭和24年以来、農林省が国営土地改良事業として実施してきたが、昭和36年9月、愛知用水公団の事業とし

第2ブロック架設状況



豊川用水位置図



て実施することとなったものである。

以来一年有余、ようやく公団として本格的着工のはこびとなり、去る6月5日、豊橋市において、この事業の本格的着工を記念する式典が、大谷農林政務次官を初め、関係者多数の列席のもとにはなばなしよく挙行された。

この事業は、愛知県東部の渥美半島および渥美湾沿岸一帯の水田 8 500 ha、畑 9 700 ha、山林 2 900 ha および田原湾干拓予定地 800 ha、計 21 900 ha の地域に農業用水を、さらに豊橋市・蒲郡市に対し年間 4 600 万 m<sup>3</sup> の上水道用水を、渥美湾沿岸一帯の工業予定地および静岡県湖西町に対し年間 10 300 万 m<sup>3</sup> の工業用水を供給しようとするもので、このための水源として、豊川の支流宇連川に堤高 65 m、堤長 246 m、総貯水量 29 110 000 m<sup>3</sup> 有効貯水量 28 420 000 m<sup>3</sup> の宇連ダムを築造し、天竜川支流大千瀬川上流の大入、振草、神田三川の水を延長 9 km のトンネルで導入貯溜し、さらに佐久間ダムより年間最大 5 000 万 m<sup>3</sup> の水を延長 14 km のトンネルで豊川上流に導水する。

これらの水を、豊川中流に大野頭首工を築造して最大 30 m<sup>3</sup>/sec を取水し、延長 6 km の大野道水路によって新城市付近まで導水し、ここで東西両幹線に分水する。

東部幹線水路は延長 76 km、渥美半島を縦走して突端の伊良湖岬へ、西部幹線水路は豊川をサイフォンで渡って延長 39 km、蒲郡市にいたる。なお、これら両幹線から末端耕地にいたるまで、総延長 815 km の

支線水路が建設される。

これらの事業のうち、宇連ダム、大野頭首工、大野導水路は、農林省施工時代、すなわち公団引継ぎ以前に完成をみているが、この事業の根幹をなす東西両幹線水路を始め支線などは、公団の手によって実施されている。

公団はとりあえず東部幹線水路の建設に力を注ぎ、37年度末までに、すでに東部幹線の中ほどにある二川サイフォンまで約 24 km に着手し、38 年度中には渥美半島中央部の高松サイフォンまで約 16 km に着手する予定で、全事業は 42 年度末までに完成することとなっており、総事業費は約 340 億円である。

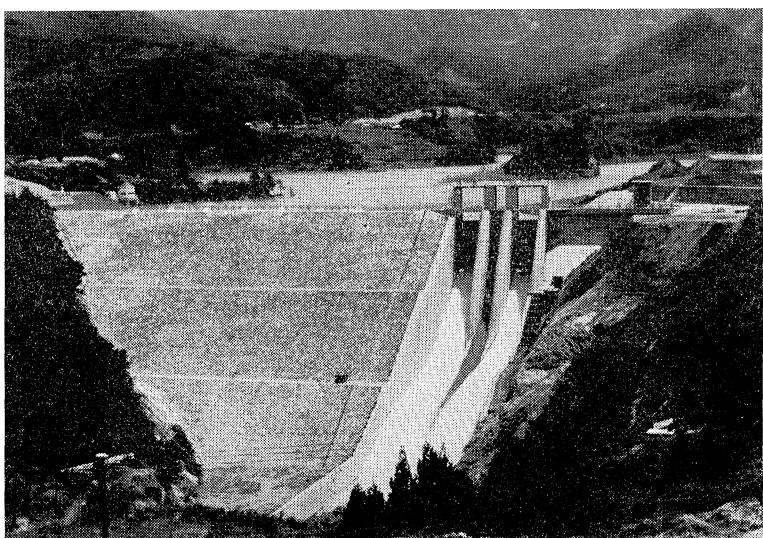
この事業が完成すれば、天与の温暖な気象条件と、東海道の中枢に位置する有利な経済的立地に恵まれているにもかかわらず、用水不足などのために不安定な農業經營を余儀なくされ、農業生産基盤の不備にあえいでいたこの地域が、今後の日本農業を代表するに足る理想的農業地帯となるばかりでなく、各種他産業の分野においても飛躍的な発展を遂げるであろう。

### 皆瀬ダム竣工

建設省が秋田県雄勝郡皆瀬村川向地内に建設中であった皆瀬ダムの竣工式が、去る 6 月 9 日松沢雄三 建設政務次官の臨席を得て現地で挙行された。

この皆瀬ダムは洪水調節、かんがい、発電を用途とする多目的ダムで、その事業計画はダム地点の計画高水流 1 300 m<sup>3</sup>/sec のうち 900 m<sup>3</sup>/sec の調節を行なって下流雄物川の洪水を 600 m<sup>3</sup>/sec 低減させるとともに、雄物川沿岸横手市ほか 1 市 5 町村にわたるかんがい用水の補給

竣工した皆瀬ダム全景



## ニュース

を行ない、さらにダムの貯水を利用して最大出力 5300 kW の発電を行なうものである。

このダムは建設省としては石淵ダムにつぐ 2 番目の表面遮水版型ロックフィルダムで、その高さは 65 m、堤体積は 550 000 m<sup>3</sup>（ロック部分 480 000 m<sup>3</sup> コンクリート部分 70 000 m<sup>3</sup>）である。

ダムの工事は昭和 32 年度実施計画、33 年度仮排水トンネル、34 年度仮設備工事および基礎掘削と進み、35 年度から堤体工事に着手した。

堤体材料は石英粗面岩であるが、このロック 480 000 m<sup>3</sup> の投入はダムサイト上流約 4 km の原石山から 15 t ダンプトラック 13 台により搬入し、モニター 3 台（6 m<sup>3</sup>/min）の射水で十分締固め、空げき率 30 % を目標として施工された。

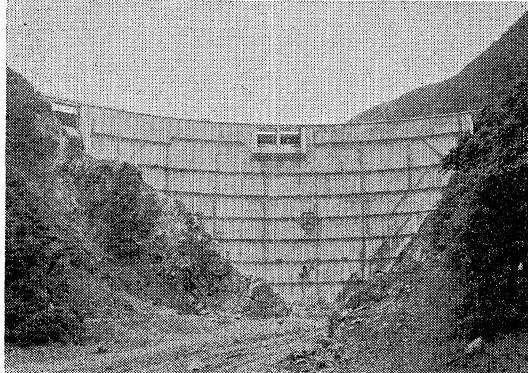
皆瀬ダムの建設とともに事業の効果は、洪水調節による災害防除額が年間約 4 億円、かんがい用水補給による増産量が年平均約 3 億 3000 万円、年間発生電力量が約 2400 万 kWh と見込まれている。

なお皆瀬ダムは 38 年 10 月に建設省より秋田県に引渡され、管理は秋田県の手で行なわれる予定である。

### 一つ瀬発電所（九州電力）竣工

九州電力が一つ瀬川に高さ 130 m のアーチダムを造り、18 万 kW の水力発電所の建設を行なっていたが、6 月 6 日一部仮使用認可を得た。なお全竣工は 7 月末の予定である。概要はつぎのとおりである。

完成した一つ瀬ダム



	最大	常時	常尖
出 力 (kW) :	171 000 (180 000)	19 100 (13 500)	130 000 (130 000)
有効落差 (m) :	144.06 (152.06)	140.12 (143.93)	123.14 (123.14)
使用水量 (m <sup>3</sup> /s) :	137 (137)	17.4 (21.5)	123.0 (123.0)

（ ）は全竣工の時

ダム：形式 アーチ式コンクリート 高さ 130 m、

頂長 415.62 m、敷幅 23.3 m、堤体積 555 000 m<sup>3</sup>

圧力トンネル：長さ 2 670.17 m 内径 6.9 m

サージタンク：上部水室高 19 m、内径 20 m、下部水室長（環状）110 m、内径 6.9 m、連結水槽高 51.1 m、内径 6.9 m、ポート内径 3.4 m

水圧鉄管：材料 SM 41-A, SM 50-B, H.T.S-60

長さ 1 号管 216.48 m 2 号管 216.28 m

内径 6.9 m～6 m～4.2 m～3.5 m

厚さ 13 m/m～36 m/m

水車：立軸フランシス 2 台

出力 94 000 kW 特有速度 136.5 m/kW

発電機：立軸回転界磁閉鎖形 2 台

容量 100 000 kVA 力率 90% 回転数 225 rpm

溪流取水：岩井谷、上湯ノ片、尾八重、打越、おのの取水

ダムを造り約 6.3 km のトンネルでダムに集水する

請負者：土木鹿島建設、奥村組、大林組、後藤組、三井建設、熊谷組、

水発電車機、東芝

水圧鉄管、酒井鉄工所

### 八尾発電所（富山県）竣工

富山県が神通川水系井田川において、すでに完成した室牧発電所の逆調整用発電所として鋭意建設を進めてきた八尾発電所

はこのほど竣工し、5 月 29 日より営業運転に入った。

富山県ではこの発電所の完成によって、井田川で 5 カ地点 55 470 kW の電源開発を行なったことになる。

当発電所の設備の概要是

つぎのとおりである。

発電所位置：富山県婦負郡高熊

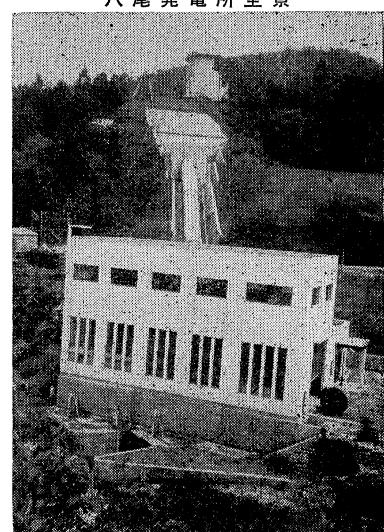
発電力 (kW) : 最大 7 600 常時 1 800

使用水量 (m<sup>3</sup>/sec) : 最大 190 常時 501

有効落差 (m) : 最大 49.0 常時 50.77

ダム：形式 重力式コンクリート

高さ 210 m 頂長 82.0 m (内越流部 29.50 m)



## ニュース

堤体積 14 640 m<sup>3</sup>

調整池：満水位標高 140.50 m 有効容量 211 000 m<sup>3</sup> 利用  
水深 6.0 m

導水路：形式 標準馬てい形圧力トンネル 内径 3.20 m  
亘長 2 582 m (うち鉄管トンネル部 27.0 m)

水圧鉄管：長さ 125.1 m 内径 3.0~1.5 m 1条球分岐以下  
2条 製作者 佐藤工業

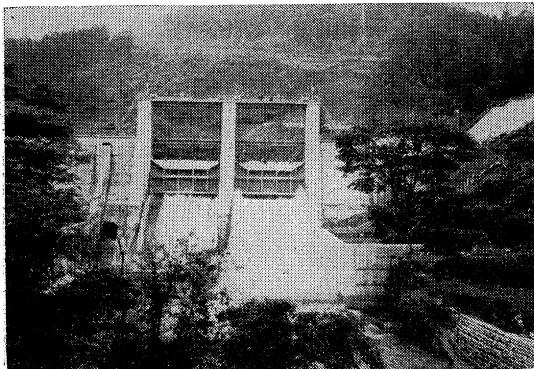
水車：形式 立軸フランシス 2台 出力 4 250 kW 回転  
数 450 rpm 製作者 東京芝浦電気

発電機：容量 4 600 kVA 力率 89.0 % (遅れ)

製作者 東芝

土木工事請負者：株木建設、林建設

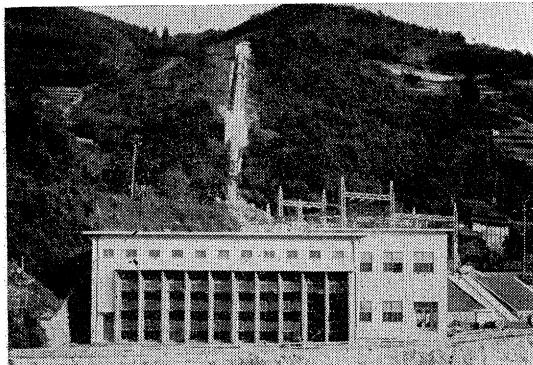
八尾ダムを下流よ望む



### 木屋発電所（福岡県営）竣工

矢部川総合開発計画の一環として、福岡県の手により工事の進められていた木屋発電所はこのほど竣工し、6月8日より営業運転を開始した。矢部川総合開発計画とは、福岡県の南部、有明海にそそぐ矢部川に、多目的ダムとし日向神ダムを設け、洪水調節、農業利水、発電事業を行ない下流に逆調整ダムを加えて利水を調整するもので、木屋発電所はこの逆調整池を利用したものである。当発電所の概要はつぎのとおりである。

木屋発電所全景



発電所位置：福岡県八女郡黒木町大字北木屋

出力 (kW)：最大 6 000 常時 1 700

使用水量 (m<sup>3</sup>/sec) : 6.00 2.06

有効落差 (m) : 121.60 123.50

年間発電力量 : 43 769 kWh\*

導水路：形式 無圧トンネル、長延 6 632 m

内径 2.58 m 標準馬てい型

うちサイフォン部 176 m 内径 2.15 m

水圧鉄管：長さ 319.8 m 内径 1.70~1.20 m

1条 製作者 石川島播磨重工業

水車：形式 立軸フランシス 出力 6 300 kW

1台 製作者 崑原製作所

発電機：容量 6 700 kVA 1台

製作者 明電舎

土木工事：鹿島建設 三和工業 飛島土木 梅林建設  
熊谷組

総工事費：14億3000万円

\* 当発電所は同一構内に水没補償の代替発電所（新矢部川発電所 1 500 kW 三潴郡北部土地改良区連合所有）を設置し、同一鉄管より分水して相互に有効な運営を行なうので、発生電力量は両者の合計をもって示されている。

### 営業運転に入った東電五井火力

#### 1号機 (265 000 kW)

東京電力KKは千葉県の臨海工業用地造成計画にもとづく京葉工業地帯の中心部、五井地域に重油専焼の大容量新鋭火力発電所の建設を計画し第1期工事として35年12月、出力 265 mW の1,2号機の建設に着手し、引き続き第2期工事として37年4月、同じく出力 265 mW の3,4号機の建設に着手し、目下鋭意建設中であるが、これらのうち今回、1号機の建設が完成し、官庁検査も終了して6月20日付をもって仮使用認可を受け、営業運転に入った。なお、同発電所の計画としては今後さらに出力 350 mW の5,6号機が予定されており、完成時には出力 1 760 mW の大火力発電所となる予定である。この発電所の発生電力は 275 000 V の送電線によって房総変電所を経て超高压外輪線に送電し、いわゆる系統火力として重量な役割を果たすことになる。今回運転に入った1号機の概要はつぎのとおりである。

##### (1) 計画概要

位 置：千葉県市原市五井地先埋立地

用 地 面 積：約 12 万坪 (土地造成 千葉県)

出 力：265 000 kW 設計熱効率：40 %

年間発電力量：約 16 億 kWh

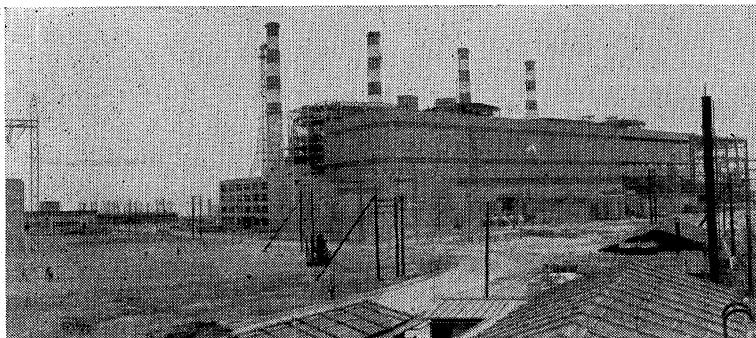
年間重油消費量：約 37 万 kL

建設費：約 165 億 (土地補償関係約 13 億、建築関係約 19 億

土木関係約 15 億、機械関係約 86 億、電気関係約

18 億、備品関係約 0.9 億、総係費関係約 2.6 億、

営業運転に入った五井火力1号機（左より1, 2, 3, 4号機）



建設利子他約10.5億

（2）主要土木工事（施工業者、間組）

護岸 総延長 約1769m

重油埠頭（-9m） 延長 291m

物揚場（-5m） 延長 80m

冷却水路 総延長 約824m

（3）主要建築工事（施工業者 大成建設）

本館（鉄骨製造者 松尾橋梁、三菱造船）

サービスビル（鉄筋コンクリート）

付属建物（煙突製造ならびに施工業者 三菱造船）

超高压変電所（鉄骨製造者、日本鋼管）

60 kVA 開閉所（鉄骨製造者、日本鋼管）

水処理室（鉄筋コンクリート）

（4）主要機器

ボイラ（製造者、三菱造船）

数 量：1基 型 式：屋外式強制循環式

蒸発量：900 t/h 燃焼方式：重油専焼

タービン（製造者 石川島芝浦タービン）

数 量：1基 型 式：2軸複式4流再熱型

単位出力：265 000 kW

汽 壓：168.7 kg/cm<sup>2</sup> G

汽 温：566°C/566°C（再熱）

回転数：3 000 rpm 抽汽段数：8段

発電機（製造者 東京芝浦電気）

数 量：1基

型 式：横置円筒回転界磁型交流同期発電機

単位容量：339 200 kVA 電 壓：15 000 V

力 率：85% 周波数：50Hz

冷却方式：水素冷却

主要変圧器（製造者 東京芝浦電気）

数 量：1基 型 式：3相屋外式

単位容量：300 000 kVA 電 壓：1次側 14 700 V

2次側 275 000 V

国鉄施設局の防災関係本年度

工事計画きまる

国鉄を襲う災害には、いろいろあるが、特に風水害、雪害による運転事故件数は、36年度は、1436件の多きにも達している。

この対策として国鉄本社施設局では、検査の強化、設備強化、災害時態勢の準備、技術研究を行なう。このうち設備強化は、検査などにより発見された構造物などの欠陥を積極的に処理するもので、橋梁改良工事、防雪設備、トンネル改築、のり改良、護岸改良工事などである。38年度本社指定の防災工事は約50億円で、橋梁工事では、東海道本線彦根～河瀬間高宮川橋梁、鹿児島本線水巻～遠賀川橋梁、北陸本線生地～西入善間、黒部川橋梁改良工事など、また、なだれ、地すべり発生のおそれのある宗谷本線間寒別～雄信内間の線路変更などがある。

### 第3回西日本高校土木教育研究会・第2回九州高校土木教育研究会総会開かれる

上記の合同総会が去る6月14日、15日の2日間、福岡市において開催され盛況であった。

1. 期日 1963年6月14日・15日

2. 会場 福岡市浜田町2那の津荘

3. 参加者 近畿以西各地より40校72名

4. 内容

1) 総会

2) 講演会 九州の道路について

日本道路公団福岡支社工事部長

3) 映写会「若戸大橋」

4) 見学会 下水処理場・国鉄新博多駅

5) 研究協議会

① 共同研究「施設設備の現状と将来」「新教育課程における実習」

② 教科単位数の調査について

③ 土木実習指導内容の研究

（兵庫県）

④ 建設機械の土木実習導入について（八幡工）

⑤ 影響線プロットの一法（八女工）

5. 38年度役員（西日本）

会長 丹羽 健蔵（都島工高長）

副会長 大塚 茂太（福岡工高長）

〃 吉田 三郎（岡山工高長）

〃 戸梶 徳喜（高知工高長）

吉永恒次郎（兵庫工高長）

常任幹事 能城 正治（都島工）